

日銀神戸
支店長の
視点

山崎真人氏



春、花の季節です。1月から続いたまん延防止等重点措置もようやく解除されました。兵庫県によるふるさと応援のキャンペーンも再開されています。ワクチン接種やマスク、手洗い、密の回避など基本の自衛策を講じつつ、ご家族や友人と旅先で季節を楽しむよい機会かと思えます。兵庫県は、歴史あるお城や庭園、個性的な町並みなど春の見どころが満載です。その魅力を再発見されてはいかがでしょう。

さて、この時期は新年度に向けて、自己研鑽の目標を立てる方も多いかと思えます。自分の場合、多くは語学でしたが、いつも三日坊主に終わってしまいました。挫折を繰り返した中で、目標達成に向けた取り組みに楽しみが伴う

この春に想うこと

ことが長続きの秘訣と悟りました。

知的好奇心を刺激することは、年齢にかかわらず、楽しみにつながります。とりわけ感受性の豊かな若い時期の取り組みは効果が大きいと思います。自分は大学で法学を専攻しましたが、法(ルール)のもとでの個人や企業の合理的な意思決定を考えると、おのずと経済学に関心が向きました。また、ルールの正当性の根源を考えると、社会学や思想にも興味が広がりました。学生時代や就職後間もない頃に学び考えたことは現在も財産となっています。

現在、コロナ禍に供給制約(半導体などの部品不足)、さらにはウクライナ情勢といったリスクが同時に顕現化し、日本経済は、不確実性の高い状況におかれています。これからも難しい時代を生きていくうえで、現状から一歩踏み出して知識の幅を広げ、本質を見極める力の涵養に取り組むことが大切だと思います。